

検体検査(採血)

検査名称		基準値	説明
WBC (白血球数)		33-86 ×10 ² /μL	体の害になる細菌や異物を食べたり、病気に対する抵抗力を強めたりする働きがあります。病気の種類や薬の影響などで増えたり減ったりします。
RBC (赤血球数)		男 435-555 ×10 ⁴ /μL 女 386-492 ×10 ⁴ /μL	血液のおもな細胞成分で、その中に含まれるヘモグロビンが酸素の運搬役をしています。貧血の指標となります。
Hb (ヘモグロビン濃度)		男 13.7-16.8 g/dL 女 11.6-14.8 g/dL	赤血球の中に含まれる色素で、酸素を体内に運ぶタンパク質です。貧血の指標となります。
Hct (ヘマトクリット値)		男40.7-50.1% 女35.1-44.4%	一定量の血液の中に、どれくらいの割合で赤血球が含まれているかを表したものです。
MCV (平均赤血球容積)		83.6-98.2 fL	貧血の場合、貧血のタイプを分類するための目安となります。赤血球数、ヘモグロビン濃度、ヘマトクリット値をもとに計算した値です。
MCH (平均赤血球ヘモグロビン量)		27.5-33.2 pg	
MCHC (平均赤血球ヘモグロビン濃度)		31.7-35.3%	
PLT (血小板数)		15.8-34.8 ×10 ⁴ /μL	出血したときに血を止める働きがあります。減少すると出血しやすくなり、増加すると血栓ができやすくなります。
RETIC (網状赤血球)		0.50-2.50%	網状赤血球の値は赤血球の産生能に反映しています。貧血の診断、病態を見るのに有用です。
血液像 (5分類)	NEUT % (好中球)	38.5-80.5%	血液中の白血球をその種類により分類し、%(百分率)で表しています。それぞれに特有の働きがあり、病気の種類や体の状態により増減し割合が変化します。
	EO % (好酸球)	0.0-8.5%	
	BASO % (好塩基球)	0.0-2.5%	
	LYMPH % (リンパ球)	16.5-49.5%	
	MONO % (単球)	2.0-10.0%	
PT (プロトロンビン時間)		74.4-120.0% (PT活性%)	血を固める機能を調べる検査です。抗凝血薬(血液をさらさらにする薬)の効果を把握するのに有用です。肝臓の障害を知ることもできます。
APTT (活性化部分トロンボプラスチン時間)		24.1-31.7 秒	
フィブリノゲン		193-412 mg/dL	血を固めて血栓を作るときに必要なタンパク質です。炎症や体内にできる血栓などの指標となります。
Dダイマー		0.50 μg/mL未満	血管内の血栓の存在を把握するのに用います。
AT活性 (アンチトロンビン活性)		76.9-114.0%	血液の凝固を阻止する働きがあります。DIC(播種性血管内凝固症候群)の重症度の把握等に用います。

検査名称	基準値	説明
TP (総蛋白)	6.6-8.1 g/dL	肝臓や腎臓の障害の有無や程度により高値になったり低値になったりします。また、全身の栄養状態を推測できます。
Alb (アルブミン)	4.1-5.1 g/dL	
A/G (アルブミン対グロブリン比)	1.32-2.23	
ALP (アルカリフォスファターゼ)	38-113 U/L	主に胆道(胆のう・胆管)の病気を調べる指標となります。また、骨の病気を調べる時にも有用です。
AST (アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ)	13-30 U/L	心臓、肝臓、筋肉などに多く含まれ、これらの臓器の障害の指標となります。
ALT (アラニンアミノトランスフェラーゼ)	男 10-42 U/L 女 7-23 U/L	肝臓の細胞に多く含まれ、肝臓の障害の指標となります。
LAP (ロイシンアミノペプチダーゼ)	30-80 U/L	肝臓・胆道の病気を調べる指標となります。
LD (乳酸脱水素酵素)	124-222 U/L	肝臓や心筋、骨格筋、血球など全身のあらゆる細胞に含まれ、それぞれの細胞の障害の指標となります。
γ-GT (ガンマグルタミルトランスフェラーゼ)	男 13-64 U/L 女 9-32 U/L	肝臓や胆道の病気を調べる指標となります。また、アルコール性肝障害を調べるのにも有用です。
ChE (コリンエステラーゼ)	男 240-486 U/L 女 201-421 U/L	肝臓の機能(働き)が障害されている程度を知るのに有用な検査です。肝臓の働きが低下すると低値になります。
T-Bil (総ビリルビン)	0.4-1.5 mg/dL	黄疸の指標となります。
D-Bil (直接ビリルビン)	0.4 mg/dL以下	黄疸の原因が肝臓・胆道の病気か、赤血球が壊される病気を鑑別するのに用います。
CK (クレアチンキナーゼ)	男 59-248 U/L 女 41-153 U/L	心筋・骨格筋に多く含まれ、これらの障害の指標となります。
CK-MB (クレアチンキナーゼMBアイソザイム)	6 U/L以下	クレアチンキナーゼ(CK)を構成する成分のひとつで、心筋に多く含まれています。心筋梗塞などで高値となります。
T-CHO (総コレステロール)	142-248 mg/dL	脂質の一種で、血管の強化・消化酵素・ホルモンの材料として重要です。しかし、多すぎると動脈硬化症など生活習慣病の原因になります。
TG (中性脂肪)	男 40-234 mg/dL 女 30-117 mg/dL	脂質の一種で、食事として摂取され、余ったエネルギーは皮下脂肪として蓄えられます。臓器や組織の維持に役立っていますが、多すぎると動脈硬化症などの生活習慣病の原因になります。
HDL-C (HDLコレステロール)	男 38-90 mg/dL 女 48-103 mg/dL	善玉コレステロールと呼ばれ、血管内壁にこびりついた脂肪分を取り除き、動脈硬化を防ぐ働きがあります。
LDL-C (LDLコレステロール)	65-163 mg/dL	悪玉コレステロールと呼ばれ、多すぎると動脈硬化の原因となります。コレステロールを各組織に運搬する重要な役割もあります。
NEFA (遊離脂肪酸)	172-586 mEq/L	脂肪組織からの放出や、末梢組織での利用状況を反映しているため、糖・脂質代謝や内分泌機能を評価する検査です。
UN (尿素窒素)	8-20 mg/dL	体内でエネルギーとして使われたタンパク質の老廃物で、腎臓から排泄されます。腎臓の病気を調べる指標となります。
UA (尿酸)	男 3.7-7.8 mg/dL 女 2.6-5.5 mg/dL	細胞の新陳代謝によってできる老廃物で、腎臓から排泄されます。痛風や腎結石の原因になります。
CRE (クレアチニン)	男 0.65-1.07 mg/dL 女 0.46-0.79 mg/dL	体内でエネルギーとして使われたタンパク質の老廃物で、腎臓から排泄されます。腎臓の機能を知るための指標です。
Na (ナトリウム)	138-145 mEq/L	体内の酸やアルカリのバランス状態を反映します。
K (カリウム)	3.6-4.8 mEq/L	水分の調節がうまくいかなかったり、体の状態などによってこれらのバランスが崩れると様々な症状を引き起こします。
Ca (カルシウム)	8.8-10.1 mg/dL	副甲状腺や骨などの病気を調べるための検査です。
IP (無機リン)	2.7-4.6 mg/dL	副甲状腺や腎臓などの病気を調べるための検査です。
Mg (マグネシウム)	1.6-2.6 mg/dL	慢性の下痢、嘔吐、アルコール多飲などで低値となることがあります。
Fe (鉄)	40-188 μg/dL	総鉄結合能(TIBC)=不飽和鉄結合能(UIBC)+鉄(Fe)の関係があります。鉄は、酸素を運搬するヘモグロビンの一部で、鉄欠乏症や鉄過剰症などの病態を推測します。
UIBC (不飽和鉄結合能)	男 170-250 μg/dL 女 180-270 μg/dL	
TIBC (総鉄結合能)	男 253-365 μg/dL 女 246-410 μg/dL	
AMY (アミラーゼ)	44-132 U/L	膵臓や唾液腺から分泌され、膵臓の障害の有無や程度を推測します。また、おたふく風邪でも高値となります。
P-AMY (膵アミラーゼ)	16-52 U/L	膵型アミラーゼは膵臓に多く存在しています。急性膵炎などで高値となります。
プレアルブミン	20-40 mg/dL	栄養状態の変動を速やかに反映し、肝臓での蛋白質を作り出す能力の指標となります。
アンモニア	12-66 μg/dL	体内でタンパク質が代謝された結果生じる有害な物質で、肝臓で処理されます。肝臓障害の重症度を推測します。
血糖	73-109 mg/dL	空腹時の血糖値を調べ、糖尿病や低血糖などを推測します。
A1c (グリコヘモグロビン) (ヘモグロビンA1c)	4.9-6.0% (NGSP値)	ヘモグロビンとブドウ糖が結合したもので、採血の2ヶ月前から採血までの血糖の平均値を反映しています。
GA (グリコアルブミン)	11-16%	アルブミンとブドウ糖が結合したもので、採血の1ヶ月前(特に直近の2週間前)の血糖の平均値を反映しています。
Lip (リパーゼ)	13-60 U/L	脂肪を分解する消化酵素です。血液中のリパーゼはほとんどが膵臓由来で、疾患の病態や膵臓機能の異常を知るための指標となります。
CRP (C反応性蛋白)	0.00-0.14 mg/dL	炎症や組織の障害により増加するタンパク質のため、炎症の指標となります。
3ヒドロキシ酪酸	0-74 μmol/L	総ケトン体は、アセト酢酸、3-ヒドロキシ酪酸、アセトンを含みます。血中ケトン体は、エネルギー代謝が脂肪酸に偏った状態で増加するので代謝の指標となります。アセト酢酸、3ヒドロキシ酪酸は酸の一種であり、これらの血中濃度の増加は代謝性アシドーシス(酸血症)を引き起こすことから重要とされています。
総ケトン体	28-120 μmol/L	
NAG (N-アセチルグルコサミニダーゼ)	11.5 IU/L 以下	腎臓の近位尿細管に多く含まれる酵素で、尿細管障害の指標となります。
シスタチンC	0.61-0.95 mg/L	腎臓の濾過機能を評価する指標となります。
ESR (赤血球沈降速度)	男 10mm以下/1時間 女 15mm以下/1時間	炎症反応に対する指標となります。
トロポニンI	26.2 pg/mL以下	心筋を構成する成分であり、心筋障害(心筋梗塞や狭心症)の有無を調べます。
ミオグロビン	25-72 ng/mL	心臓や筋肉中に存在し、主に心筋障害の有無を調べる検査です。
NT-proBNP	125 pg/mL以下	心機能の把握、心不全の重症度の把握、心不全や心肥大の治療効果の確認などを行う時に検査します。

検査名称	基準値	説明
HBs抗原	陰性 (COI<0.9)	B型肝炎ウイルスの感染の有無やその状況を反映します。
HBs抗体	陰性 (10 IU/mL未満)	
HBc抗体	陰性 (S/CO<1.00)	B型肝炎ウイルスの感染初期から感染後長期にわたり検出されるもので、過去の感染も含めて広く拾い出すのに有用です。
HCV抗体	陰性 (COI<0.9)	C型肝炎ウイルスの現在または過去の感染の有無を反映します。
TP抗体	陰性 (COI<1.0)	梅毒トレポネーマの現在または過去の感染の有無を反映します。
RPR	陰性 (1 RU.未満)	
HIV抗原抗体	陰性 (COI<1.0)	HIVウイルス感染の有無を調べるのに有用です。
HTLV-I/II抗体	陰性 (COI<1.0)	成人T細胞白血病の起因ウイルスであるHTLV-Iウイルスや、脊髄障害との関連が示唆されているHTLV-IIウイルスの感染の有無を調べるのに有用です。

検査名称	基準値	説明	
TSH (甲状腺刺激ホルモン)	0.500-5.00 μIU/mL	甲状腺機能の指標となります。	
FT3 (遊離トリヨードサイロニン)	2.3-4.0 pg/mL		
FT4 (遊離サイロキシン)	0.90-1.70 ng/dL		
サイログロブリン (Tg)	33.7 ng/mL 以下	甲状腺疾患（甲状腺分化癌、パセドウ病など）の経過観察に有用です。	
TgAb (抗サイログロブリン抗体)	4.11 IU/mL未満	橋本病・パセドウ病などの自己免疫性甲状腺疾患の診断に有用です。	
TPOAb (抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体)	5.61 IU/mL未満		
TRAb (抗TSHレセプター抗体)	2.0 IU/L未満 (カットオフ値)	主にパセドウ病の診断、経過観察に有用です。	
AFP (α-フェトプロテイン)	10 ng/mL以下	腫瘍マーカー※1	
CEA	5.0 ng/mL未満		主に消化器系がんや肺がんのスクリーニング（ふるいわけ）になります。
CA19-9	37 U/mL以下		主に消化器系がんのスクリーニング（ふるいわけ）になります。
CA125	35 U/mL以下		主に卵巣がんの診断に有用です。
CA15-3	25 U/mL以下		主に乳がんの診断に有用です。
シフラ	3.5 ng/mL以下		肺がん（扁平上皮がん）の診断に有用です。
PSA (前立腺特異抗原)	4 ng/mL以下		前立腺がんの診断に有用です。
PIVKA-II	40 mAU/mL以下		肝臓がんの診断に有用です。
IgG	861-1747 mg/dL	感染症や自己免疫性疾患などの指標となります。また腫瘍性に過剰産生されるような疾患の診断・経過観察や免疫不全症の診断にも有用です。	
IgA	93-393 mg/dL		
IgM	男 33-183 mg/dL 女 50-269 mg/dL		
非特異的IgE	232 IU/mL 以下	主にアレルギー性疾患の指標となります。	
HCG (血中)	※2	妊娠し受精卵が発育すると大量に分泌されます。妊娠の診断と経過観察、流産や子宮外妊娠の補助診断などに用いられます。	
βHCG (血中)	※2	HCGを構成するサブユニットのうち、β-サブユニットを測定しています。特に絨毛性疾患ではβ-サブユニットが多量に産生されるといわれています。	
ASO (抗ストレプトリジンO価)	160 IU/mL以下	溶連菌感染症の診断に有用です。	
RF (リウマチ因子)	15.0 IU/mL以下	リウマチ性疾患の診断に有用です。	
フェリチン	男 39.90-465 ng/mL 女 6.23-138 ng/mL	腫瘍マーカーとして用いる場合と、体内貯蔵鉄の指標として用いる場合があります。	
CH50	31.6-57.6 U/mL	免疫系が関与する疾患（SLEや悪性関節リウマチなど）の診断や治療効果の判定、経過観察に有用です。	
C3	73-138 mg/dL		
C4	11-31 mg/dL		
BMG (血中)	2.0 μg/mL以下	腎から排泄されるため、腎機能の指標となります。	
LH (黄体形成ホルモン)	※2	男性では精巣機能障害の診断に、女性では排卵障害の診断に有用です。	
FSH (卵巣刺激ホルモン)	※2		
PRL (プロラクチン)	男 3.46-19.4 ng/mL 女 5.18-26.53 ng/mL	主に産褥期婦人における乳汁分泌を促すホルモンです。それ以外で高値を示した場合は異常と考えられます。	
E2 (エストラジオール)	※2	卵巣から分泌される女性ホルモンで、卵巣機能を反映します。	
インスリン	18.7 μU/mL 以下	血糖値などと併せて糖尿病の診断に有用です。	
C-ペプチド	0.8-2.5 ng/mL		
プロカルシトニン	0.50 ng/mL以下	細菌感染症の鑑別診断に有用です。	
可溶性インターロイキン-2受容体 (sIL-2R)	496 U/mL以下	白血球の活性を反映します。白血病の診断や治療効果の判定、経過観察に有用です。	
インターロイキン6 (IL-6)	7 pg/mL以下	感染症などで炎症の程度を評価するのに有用です。	
シアル化糖鎖抗原KL-6	500 U/mL以下	間質性肺炎の診断に有用です。	
マトリックスメタロプロテイナーゼ-3 (MMP-3)	男 36.9-121 ng/mL 女 17.3-59.7 ng/mL	関節リウマチにおける軟骨・骨破壊の程度を反映します。	
コルチゾール	7.07-19.6 μg/dL	副腎皮質機能の指標となります。	
ACTH (副腎皮質刺激ホルモン)	7.2-63.3 pg/mL		
浸透圧 (血清)	270-290 mOsm/ Kg H ₂ O	体液の濃縮あるいは希釈の状態をみています。恒常性の維持のため、一定の幅に保たれています。	
※1)マーカーとは「指標」のことです。これらを検査することで診断の補助や治療後の経過観察などに役立ちます。検査値の上下のみで、がんの存在を判断できるものではありません。喫煙や炎症などの要因で変動することがあります。			
※2)妊娠や月経周期によってホルモンの値が変動するため、基準値も変動します。			

検査名称		説明
血中薬物濃度測定	ジゴキシン	各種薬物の血中濃度を測定します。
	バンコマイシン	
	フェノバルビタール	
	フェニトイン	
	バルプロ酸	
	カルバマゼピン	
	テイコブラニン	
	シクロスロリン	
	タクロリムス	
	メトレキサート	
ミコフェノール酸		